

# GX基本方針等 パブコメ提出方法

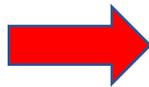
提出アクセス先

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=595222084&Mode=0>

# 1.意見公募要領をクリックして一読

## 2.意見募集要領(提出先を含む)を確認しました。に、 チェック☑を付ける

意見入力へ



意見入力へ

色が変わって  
クリックできるように！

e-GOV パブリック・コメント

トップ | パブリック・コメント制度について | **案件一覧** | ヘルプ

トップ > 案件一覧 > 「GX実現に向けた基本方針」に対する意見募集

### 「GX実現に向けた基本方針」に対する意見募集

募集中

facebook twitter

カテゴリ	経済財政政策
案件番号	595222084
定めようとする命令などの題名	GX実現に向けた基本方針
根拠法令条項	—
行政手続法に基づく手続か	任意の意見募集
案の公示日	2022年12月23日
受付開始日時	2022年12月23日20時0分
受付締切日時	2023年1月22日23時59分
意見提出が30日未満の場合その理由	
意見募集要領 (提出先を含む)	<a href="#">意見公募要領</a> PDF
命令などの案	<a href="#">GX実現に向けた基本方針</a> PDF
関連資料、その他	
資料の入手方法	担当課室において配布
備考	
問合せ先 (所管省庁・部局名等)	内閣官房 GX実行推進室 経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 気候変動課 財務省 大臣官房 総合政策課 環境省 地球環境局 総務課 資源エネルギー庁 総務課 外務省 国際協力局

意見提出前に、意見募集要領 (提出先を含む) を確認してください。

意見募集要領 (提出先を含む) を確認しました。

意見提出には画像や音声による認証が必要です。

戻る

意見入力へ



## 意見入力

命令などの案に対する意見をを入力してください。

### 注意事項

意見提出の締切日時を過ぎた場合は、意見を提出できませんので、ご注意ください。

### 「GX実現に向けた基本方針」に対する意見募集

案件番号	595222084
所管省庁・部署名等	内閣官房 GX実行推進室 経済産業省 産業技術環境局 環境政策課 資源エネルギー庁 総務課 外務省 国際協力局 気候変動課 財務省 大臣官房 総合政策課 環境省 地球環境局 総務課
受付開始日時	2022年12月23日20時0分
受付締切日時	2023年1月22日23時59分

0/6000

あいうえお...

意見入力箇所

差支えなければ、意見提出にあたっては、住所、氏名等の情報を入力してください。

〒郵便番号

100

- 8928

郵便番号から住所を自動入力

半角数字

〒住所

東京都千代田区霞が関2-1-2

〒姓

バブコメ

〒名

太郎

〒電話番号

03

- 5253

- 5111

半角数字

〒メールアドレス

abc@edfggo.jp

〒メールアドレス(確認用)

abc@edfggo.jp

個人情報の取り扱いについて

私はロボットではありません

captcha

プライバシー - Cookie

内容を確認

提出者の情報入力箇所

このページを閉じる

# 入力に際しての注意事項

- いきなり入力フォームに書き始めると危険です！  
せっかく書いた意見がエラー等のトラブルで全部消えるという事態があります。

→Wordやメモ帳等を活用して作成し、  
コピー&ペースト(貼り付け)で作業しましょう。

- 使えない文字があるので要注意！  
機種依存文字は受け付けてくれません。使うと提出できません。案からコピーで引用する際は、①、②など数字表記で機種依存文字が使われているので要注意です。

→機種依存文字をチェックするサイトもあるので、事前に確認しておくとう安心です。

機種依存文字をチェックするサイト

<https://form.submitmail.jp/tools/check/>

**【P6, 3) 原子力の活用】**

原子力発電所について、運転期間「原則40年、最長60年」を撤回し、停止期間を除いて60年を超える稼働を可能ととしているが、再稼働は安全面でも対策コスト面でも大きな問題を抱えていることから、原子力発電を活用すべきではない。

**【P7, 4)水素・アンモニアの導入促進】**

石炭火力でのアンモニア燃焼、将来的な専焼は、現時点で商業利用できていない。2030年までにCO2排出量を半減させるためには、実質的なCO2削減につながる再エネ・省エネへの投資をするべきである。

**【P7, (4)水素・アンモニアの導入促進】**

既存のアンモニアの製造方法では、製造段階で多くのたくさんのCO2を排出するため、石炭火力でアンモニアを混焼させても、ライフサイクルベースではCO2はほとんど削減されず、化石燃料利用の延命にしかならない。カーボンプライシングなど、排出削減につながる経済政策の導入のほか、再生可能エネルギーの普及につながる施策に全力を注ぐべきである。

・電力供給の確保に向け、2024年度から容量市場を開始する予定となっていますが、容量市場は、既存の石炭火力発電所の維持に強いインセンティブとなることが懸念されます。【P8, 5)カーボンニュートラル実現に向けた電力・ガス市場の整備】

**【P12, 13) カーボンリサイクル/CCS 4 CCS】**

CCSについて、CO2の回収や貯留には多額のコストが必要な上、回収には限界があり、回収・貯留後もCO2漏洩のリスクは否定できない。また、CCS適地を日本国内で確保するのは困難であり、貯留先も海外に依存することになることから、化石燃料輸入と同様の輸入リスクが生じる。

**【P14, 3.「成長志向型カーボンプライシング構想」の実現・実行, (2)「GX経済移行債」(仮称)を活用した大胆な先行投資支援(規制・支援一体型投資促進策)2)「GX経済移行債」(仮称)】**

GX投資には、今後10年間で150兆円超えが想定されており、うち20兆円規模を「GX経済移行債」(仮称)として国が先行投資するとしています。この投資を省エネや再エネに振り向け、より実質的な脱炭素社会の実現に向かう施策にする必要がある。現状の基本方針は、そのようになっていない。

**【P16, 3.「成長志向型カーボンプライシング構想」の実現・実行, (3)カーボンプライシングによるGX投資先行インセンティブ】**

カーボンプライシングは化石燃料からの脱却を後押しすることにつながる。炭素価格の制度設計と導入時期(2028年度開始予定)の前倒しについて再考が必要である。

**【P19, 3.「成長志向型カーボンプライシング構想」の実現・実行, (4)新たな金融手法の活用】**

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、技術や需要の不透明性が高いものについては、公的資金と民間資金を組み合わせた金融手法(ブレンデッド・ファイナンス)の確立が重要と記されているが、先行き不透明な技術に投資している時間は残されていない。すでに実用化されている再エネ技術等が最大限促進される制度とするべき。

**【P26, 6. GXを実現する新たな政策イニシアティブの実行状況の進捗評価と見直し】**

そもそもGXの基本方針はエネルギーの安定供給の確保を大前提としている。そのため、GX実行会議で進捗評価・見直しが行われても、2050年ネットゼロに向けた脱炭素政策の進捗評価にはつながらない懸念がある。

### 3. 私はロボットではありません

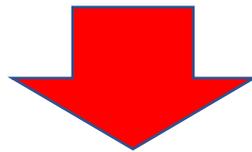
を入れる

※チェックを入れても時間が経過すると無効と表示されるので、その場合は指示に従い、再度チェックを入れる

個人情報の取り扱いについて 

私はロボットではありません   
プライバシー - 利用規約

**内容を確認**



### 4. 内容を確認をクリック

個人情報の取り扱いについて 

私はロボットではありません   
プライバシー - 利用規約

**内容を確認**

## 5. 提出を確認をクリック

郵便番号	
住所	
氏名	
電話番号	
メールアドレス	

修正

提出

## 5. 提出完了画面

e-GOV パブリック・コメント

意見入力

内容確認

提出完了

### 提出完了

「GX実現に向けた基本方針」に対する意見募集 への意見を次の受付番号で受け付けました。お問い合わせの際には受付番号が必要です。



控えを保存

[このページを閉じる](#)